

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） 2016 年度より、文学研究科共同研究会において FD の観点を取り入れた活動を開始しているので、その内容を更に充実させたい。 参加者人数の前年比増を一つの指標とする。 3-4【目標】「各専攻の FD 活動委員会～」は実質的には文学研究科であるため、中期目標を修正する。

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	文学研究科
評価基準 3	教員・教員組織【自己評価 A】
点検・評価項目(1)	3-1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
評価の視点	教員に求める能力・資質等の明確化
	教員構成の明確化
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
点検・評価項目(2)	3-2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
評価の視点	編制方針に沿った教員組織の整備
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
	研究科担当教員の資格の明確化と適正配置
点検・評価項目(3)	3-3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
評価の視点	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化
	規程等に従った適切な教員人事
点検・評価項目(4)	3-4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
評価の視点	教員の教育研究活動等の評価の実施
	ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性
点検・評価項目(5)	3-5 教員組織の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

3-1	文学研究科は、大学院及び文学研究科、研究科内の各専攻の理念と目的を十分に理解し、熱意と創意あふれる教育と独創的な研究を行うと同時に、大学院及び文学研究科、研究科内の各専攻の運営に積極的に参加する教員を求める。 教員組織の編制は、学園規則に定められた教員選考基準及び「大東文化大学大学院文学研究科担当教員選考規程」に従って行うが、年齢、性別、国籍、分野などを考慮しつつ、文学研究科及び研究科内の各専攻の理念と目的を実現する教員組織となるよう努める。 専攻ごとの求める教員像と編制方針は、別添資料のとおりである(B3-5 p.13～p.16)。 文学研究科の教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在、また教員組織の適切性の検証については、組織体制と責任の所在を明確にし、学部教授会、専攻協議会、文学研究科委員会、大学院評議会、理事会等で適切に対処している。
3-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 求める教員像・教員組織の編制方針の策定について【×】 具体的事例：
3-2	文学研究科 5 専攻は、大学院設置基準に準拠し、編制方針に沿って教員組織を整備している。本研究科の教員組織の整備および授業科目と担当教員の適合性については、各専攻協議会、文学研究科委員会で、毎年度確認を行っている。研究科担当教員の資格の明確化については、「大東文化大学大学院文学研究科担当教員選考規程」(A3-4-9)にもとづいて適正に行われている。 教員 1 人当たりの学生数は 1.8 人である(d2-表 3)。専任教員の年齢構成（比率）は、61 歳以上が 17 人（60.7%）、51～60 歳が 8 人（28.6%）、41～50 歳が 3 人（10.7%）である。また、女性の専任教員（比率）は 2 人（7.1%）、外国人数員は 0 人（0.0%）である。研究指導教員は、28 人（うち教授数 23 人）兼任教員数 28 人である(d1-表 2、B3-26 d2-表 5、表 4)。

	文学研究科の教員組織は、大学院設置基準に定められた教員数を満たし、教員組織の編制方針に合致した編制が行われている。 なお、教育学専攻においては、開設後 10 年を経て教育学を取り巻く状況や所属教員の構成が変化してきたことから、2019 年度から新カリキュラムに移行すべく議論を重ね、専攻内での議論がまとまりつつある。
3-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 編制方針に沿った教員組織の整備について【○】 具体的事例：中国学専攻では、2017 年度に若手の女性教員が大学院担当教員となった。これにより年齢構成のバランスが取れ、教員の男女比も改善に向かうことになった。英文学専攻では、准教授（講師）に大学院担当希望調査を開始し、カリキュラム改正も検討しながら科目担当を検討している。 (2) 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備について【×】 具体的事例： (3) 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置【○】 具体的事例：英文学専攻では、学科におけるコマ数削減の要請を受けて、大学院担当教員の増加により学科科目担当に弊害が出る可能性に留意して検討を進めている。
3-3	文学研究科の教員は学部にも所属しており、研究科には募集・採用・昇格の人事権がないため、それらの審議と決定は学部教授会で行われる。 文学研究科では、教員の大学院科目担当資格審査・選考は「大東文化大学大学院文学研究科担当教員選考規程」(A3-4-9)に基づき適切に行われている。 選考・審査については、当該専攻の協議に基づいて、専攻主任が文学研究科委員会に大学院担当教員資格審査委員会の設置を提案し承認を受ける。資格審査委員会は、候補者の履歴書・研究業績一覧・主要業績等に基づいて審査を行い、規程に定められた基準に達しているか否かを判定する。資格審査委員会の審査結果は、文学研究科委員会において審査が行われる。
3-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化について【×】 具体的事例： (2) 規程等に従った適切な教員人事計画について【×】 具体的事例：
3-4	文学研究科として教員の教育研究業績を評価する制度は整備していない。また、研究科では「学生による授業評価アンケート」が実施されておらず、教員の教育活動の評価は行っていない。教員の資質の向上を図るための活動のうち、教育活動については、文学研究科 FD 委員会を中心に、文学部 FD 委員会と合同で FD 研究会を行っている。2016 年 3 月 10 日開催の文学部と合同の FD 研究会では、積極的な授業改善への取り組み（実践例発表）に基づき、文学研究科においても更なる改善についての検討を開始している。社会貢献・管理業務など教員に求められる様々な活動に関する教員の資質向上を図るための研修等は実施していない。
3-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 教員の教育研究活動等の評価の実施について【×】 具体的事例： (2) ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と、その有効性について【○】 具体的事例：文学研究科では、従来は専攻主任が委員を兼務する形であったが、2016 年度途中より研究科内に独自の FD 委員会を設置し、2017 年度より文学研究科独自の FD 研究会を実施予定である。
3-5	教員組織の適切性については、文学研究科及び 5 専攻各々の専攻協議会において、定期的にカリキュラム編成と教員の相関についての検証が行われている。その結果は文学研究科委員会に報告されている。
3-5	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 教員・教員組織の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

3-1	従来の大学院担当教員資格審査を緩和し、専門分野に沿った担当教員を大幅に増加させた。
3-2	3-1 の結果をふまえ、担当者が増員され、それぞれの専門性についての検討を、各専攻の専攻協議会において継続実施している。
3-3	
3-4	

3-5	
-----	--

【改善すべき事項】

3-1	
3-2	文学研究科全体としては、女性教員や外国人数員の比率に改善の余地がある。教員構成に関しては学部の教員構成との関わりも重要なので、この連携を今後さらに密にする。
3-3	
3-4	研究内容とその結果（業績）は、同一基準では判断不可能であり、「評価」がどうあるべきかは検討すべき。
3-5	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	3-1 求める教員像および教員組織の編成方針を制定する。	求める教員像および教員組織の編成方針が制定されている。	→		B	A	
	3-2 教員の年齢構成、女性教員、外国人数員の比率を改善する。	教員の年齢構成の偏りが是正され、女性教員、外国人数員の比率が増加している。			B	A	
	3-2 《日本文学専攻》 専任教員定年後の補充の問題を検討し、解決する。	専任教員定年後の補充の問題を検討し、解決されている。			S	A	
	3-2 《日本文学専攻》 柔軟な教育研究体制（大学院担当教員の拡充・全教員が論文指導を担当できる体制）の構築を検討する。	新たな大学院担当教員の選出を検討する。全員が論文指導を担当できる新カリキュラム・新体制を検討する。			A	A	
	3-2 《中国学専攻》 本専攻の担当教員の年齢構成をバランスの良いものにする。	本専攻の担当教員の年齢構成をバランスの良いものになっている。			A	S	
	3-2 《中国学専攻》 専攻 3 分野（哲学・史学・文学）に有資格者がそれぞれ 2 名ずつ配置され、円滑に演習及び論文指導が実施される。	中国学専攻協議会の検討を経て、専攻 3 分野（哲学・史学・文学）に有資格者がそれぞれ 2 名ずつ配置されている。			B	S	
	3-2 《英文学専攻》 教員組織の柔軟性を図るために、文学部の学科所属の教員全員が大学院教育に参加できるような体制を構築する。	文学部の学科所属の教員全員が大学院教育に参加できるような体制に移行している。			B	B	
	3-2 《英文学専攻》 准教授（講師）が大学院教育に携わるようにする。	准教授（講師）が大学院教育に携わっている。			B	B	
	3-2 《英文学専攻》 本専攻の担当教員の補充をすみやかに行う。	本専攻の担当教員が補充されている。			S	S	
	3-2 《書道学専攻》 広く専任講師も大学院教育に携われるようにする。 ※中期目標を追加する（2017 年度に追加した）	専任講師が大学院教育に携わっている。			—	C	
	3-2 《教育学専攻》 柔軟な教育研究組織体制（大学院担当教員全員が論文指導に関わることができる体制）を構築する。 ※中期目標を修正する（2017 年度に	柔軟な教育研究組織体制（大学院担当教員全員が論文指導に関わることができる体制）が構築されている。			C	—	—

	削除した)	
	3-2 《教育学専攻》 大学院教育に携わる教員の数を増やす。 ※中期目標を修正する（2017 年度に削除した）	大学院教育に携わる教員の数が増えている。
	3-2 《教育学専攻》 専任教員定年後の補充人事をすみやかに行う。 ※中期目標を削除する（2017 年度に削除した）	専任教員定年後の補充人事が行われている。
	3-2 《教育学専攻》 論文指導において、主査が片寄ることのないように配置する。 ※中期目標を追加する（2017 年度に追加した）	院生一人ひとりをそれぞれ 1 名の指導教員（主査予定者）が責任をもって指導に当たっている。
	3-2 《教育学専攻》 定員削減及び科目整理の見直しの中でも、比率的には十分な担当教員を確保する。 ※中期目標を追加する（2017 年度に追加した）	6～8 名の新規担当教員の資格審査が達成されている。
	3-2 《教育学専攻》 担当専任教員の定年後の補充のみでなく、科目編成の変更に伴う補充人事を実施する。 ※中期目標を追加する（2017 年度に追加した）	全ての科目に担当教員が配置されている。
	3-4 各専攻の FD 活動委員会を組織し、活動を開始し、文学研究科の FD 活動の中に位置づける。 ※中期目標を修正する（2017 年度に削除した）	各専攻の FD 活動委員会が組織され、活動が始動されており、文学研究科の FD 活動の中に位置づけられている。
	3-4 文研全体の FD 委員会を組織し、活動を開始する。 ※中期目標を修正する（2017 年度に追加した）	文研全体の FD 委員会を組織し、活動を開始している。
	3-4 「研究業績システム」による HP での公表を再確認し、継続的に公表する。	HP 上で確認でき、継続的に公表している。
	3-4 教員の研究資質の向上のための方策の調査、検討を開始し、その結果を教員の研究資質の向上のために活用する。	教員の研究資質の向上のため方策を活用している。
16 年度 目標	3-2 《日本文学専攻》 柔軟な教育研究体制（大学院担当教員の拡充・全教員が論文指導を担当できる体制）の構築を検討する。	新たな大学院担当教員の選出を検討する。全員が論文指導を担当できる新カリキュラム・新体制を検討する。
	3-2 《日本文学専攻》 すべての専任教員が演習（論文指導）を担当し、非常勤講師が担当する講義科目もバランスよく設置する。	必要に応じて、学則を変更し、全専任教員が演習を担当できる体制が構築されている。

		C	—	—
		C	—	—
		—	A	
		—	A	
		—	A	
		A	—	—
		—	S	
		S	S	
		A	A	
→		S		
		A		

	3-2 《中国学専攻》 本専攻の担当教員の年齢構成をバランスの良いものにする。	本専攻の担当教員の年齢構成をバランスの良いものにできている。
	3-2 《中国学専攻》 史学分野 1 名・哲学分野 1 名の補充を行う。	史学・哲学分野で補充されている。
	3-2 《英文学専攻》 准教授（講師）が大学院教育に携わるように検討する。	学部の学科協議会で准教授の希望調査を開始し英語教育を担当可能な教員を検討している。
	3-2 《教育学専攻》 専攻の将来像の検討と合わせて教員組織の組見直しをおこなう。	教員組織の改編案を作成し、専攻協議会のみでなく学科協議会でも協議を行なっている。
	3-2 《教育学専攻》 専攻および学科の近年の全体状況変化（教職課程センター設立など）に対応する教員の処遇を明確化する。	狭義の学科専任外の教員の大学院担当のあり方について具体的な検討を行ない、新たな合意を確認している。
	3-2 《教育学専攻》 近年の定年者の累積に応じて、学科と専攻の間の教員配置を見直す。	配置の見直し案に基づいた協議が、学科と専攻の両協議会で合意を見ている。
	3-4 教員の研究資質の向上のための方策の調査、検討を開始し、その結果を教員の研究資質の向上のために活用する。	教員の研究資質の向上のための方策の調査、検討を開始している。学部と合同のFD研究会のみならず、文学研究科独自の方策について、更なる検討を行う。
17 年度 目標	3-1 求める教員像および教員組織の編成方針を制定する。	求める教員像および教員組織の編成方針を制定している。
	3-2 教員の年齢構成、女性教員、外国人教員の比率を改善する。	引き続き検討する。
	3-2 《日本文学専攻》 学生に向けて、選択肢の拡充のため、教員組織の拡充と充実をはかる。	必要に応じて、教員の補充をおこない、学生の幅広い要望に応える。
	3-2 《中国学専攻》 将来の教員の定年等による退職を考慮し、哲学・文学・歴史各 2 名の有資格者配置を維持できるよう、人事計画を行う。	左記の計画がなされている。
	3-2 《英文学専攻》 大学院教育に携わる教員の増員と設置科目の配置を見直す。	検討をしている。
	3-2 《書道学専攻》 広く専任講師も大学院教育に携われるように検討する。	専攻協議会において検討している。
	3-2 《教育学専攻》 担当教員組織の見直し案を確定し承認を得るべく手続きを進める。	教員組織の改編案を専攻協議会及び学科協議会において合意し、大学院担当教員資格審査手続に入っている。
	3-2 《教育学専攻》 専攻の担当教員は、狭義の学科専任及び特任に限定した上で、学科教員全体で大学院運営の実情を共有する。	新たな教員組織による専攻運営が着手されており、その実情が随時学科協議会にも報告されている。

		S		
		A		
		S		
		A		
		A		
		B		
		S		
→		A		
		A		
		A		
		A		
		S		
		S		
		A		
		A		

3-2 《教育学専攻》 新たな教員配置案に基づく人事を進める。	人事がほぼ完了し、新たな教員配置の準備が整っている。
3-4 文研全体の FD 委員会を組織し、活動を開始する。	文研全体の FD 委員会を組織し、活動を開始している。
3-4 教員の研究資質の向上のための方策の調査、検討を開始し、その結果を教員の研究資質の向上のために活用する。	各専攻ごとに、いかなる方策を実施するかを検討を行う。

			A	
			S	
			A	

IV 評価専門委員会所見

3-2【改善】【目標】専任教員の年齢構成は61歳以上が17人（60.7%）であるので、女性教員や外国人数員の比率と同じく改善事項とするべきかと思います。

中期目標の、年齢構成等の比率改善についての2016評価が、研究科全体の評価がBで、各専攻ごとにおいては中国学専攻の評価がA、同16年度目標の評価がSと記されており、整合性がわかりません。

3-2、3-4【目標】各専攻ごとに個々に記されていますが、文学研究科としてのまとまりで記述してください。

「目標達成の指標」として「専攻協議会において検討をしている」「引き続き検討する」というような記述がありますが、達成度合が分かりにくいので、できるだけ検討する内容や数値目標を盛り込んだ「目標達成の指標」を設定されるのがよろしいかと思います。

V 所見への対応

3-2【改善】【目標】中国学専攻では、文学部中国文学科で中国哲学担当の若手の女性教員を採用し、あわせて大学院も担当することになった。これにより専攻教員の年齢構成がほぼバランスのよいものとなった。

3-2、3-4【目標】英文学専攻では、設置科目の見直しと担当教員の増員を検討しているが新たな課題（教員の担当コマの増加）も生じている。今年度は50%の達成を目標とする。

VI 次年度への課題

--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

<根拠資料>

- A3-2 教員選考基準
- A3-4-9 大東文化大学大学院文学研究科担当教員選考規程
- A3-6 大東文化大学客員教員任用基準
- A3-7 大東文化大学助教規程
- A3-12 専任教員の教育・研究業績（CD-R）
- B3-1 大東文化大学専任教員就業規則
- B3-2 大東文化大学特任教員就業規則
- B3-5 学部・学科、研究科・専攻の求める教員像及び教員組織の編成方針
- B3-26 大学データ集 《既出》B1-22

<大学基礎データ>

d1-表2 全学の教員組織

〔追加資料〕